

いちかわ

市川

こういちろう

浩一郎さん

不二越機械工業社長



県内企業の自立を支援

「企業の原則は『富士山』。まな経営の核を持つことを心ではなく『八ヶ岳』。さまざま掛けていく」。携帯電話やテ

レビなど多くの電子製品に組み込まれる半導体の原料「シリコンウエハー」。その製造装置を作る不二越機械工業（長野市）の社長を1986（昭和61）年から務める。

世界をリードしてきた日本の半導体産業はいま、新興国の台頭や円高で競争力が低下している。それでも「ナノ（1ナメは100万分の1ミ）とといった単位で精密な加工ができる国内産業の強みはまだま

だ生かせるはずだ」。公益財団法人県テクノ財団の理事長となつて1年半。企業が大学などと技術開発で協力する「産学官連携」の推進を挙げ、「下請けが多い県内企業が自立するための支援を進めたい」と強調する。

四字熟語の「脚下^{きやうか}照顧^{かしようこ}」が座右の銘。「足元の履物を

そろえるといった自身を省みる心を大切にしたい」。千曲市粟佐で妻と暮らす。71歳。